



シリーズ「自分の命は自分で守る」(全4回)②



“地域での助け合い”で被害を最小限に

☎総務課地域安全対策係 ☎028(677)6029



各地区自主防災組織の様子
(昨年度の町・自主防災組織合同防災訓練)

問われる地域の防災力

災害が起きた時、その被害が大きければ大きいほど、公的機関による支援(公助)が行き届くまでには、時間を要することが考えられます。

「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動することが第一です。しかし、それだけでは身を守ることができないような場合には、地域の人

同士がお互いを支え合う「共助」という考え方に基づき行動することが大切です。

自分や家族のほか、身近な人々の安全を守るかどうかは、その地域の「防災力」によって左右されると言えます。そして、被害が大きく非常事態が長引くほど、結果に違いが出る可能性があります。

被害を最小限に抑えるには「まずは地域で助け合うこと」が重要です。

町・自主防災組織合同防災訓練

今年は10月17日(日)※予定

町や消防署など各関係機関が迅速で適切な災害対応ができるよう備えることを目的とするほか、町民の皆さんに自助・共助の意識や減災につながる習慣を持っていただくことを狙いとしています。

地域の皆さんにご協力をいただきながら、平成30年度から毎年継続して実施しており、今年度は4回目となります。

進む「顔の見える」助け合い 自主防災組織

地域には、老若男女さまざまな人が住み、地域ごとの特徴があります。防災活動は、それぞれの地域の特徴に合わせて行う必要があります。

自主防災組織は、地域の実情を把握して「顔の見える」助け合いができる防災組織として、大きな存在です。

各地区自主防災組織

自治会を中心とした各地区自主防災組織は、大規模災害の際に避難所の開設や安否確認、障害物の撤去を行うなど、地域防災の大きな力となっています。

昨年度、上給自主防災会は、町内初の取り組みとして、地域の実情に沿った「地区防災計画」を作成しました。

自主防災組織と町は、合同防災訓練を行うなど、災害に対する備えや防災意識の向上を図っています。



▲地区防災計画策定作業の様子(上給自主防災会)



▲町防災士連絡会設立総会の様子

地域全体の力を高める 防災士同士の連携

町は、地域防災力の強化を目指し、地域防災の中核的人材となる「防災士」の養成に力を入れています。

令和3年7月末現在、町内在住の防災士の有資格者は43人です。町は、防災士を増やすことに加え、防災士が各々の専門的知識や技能を発揮できるよう取り組んでいきます。

令和3年3月2日には「町防災士連絡会」が設立されました。今後、町内の防災士同士の連携強化が図られます。各防災士の知識や技能の向上の効果も期待されます。

町防災士連絡会は、地域の防災力向上のため、自主防災組織と町との合同防災訓練での活動や啓発活動など、さまざまな場面での活動を予定しています。



「防災士同士をつなぎ、研修を重ねて各人の能力を高め、町民から頼られる防災士会を目指します」と意気込みを語る町防災士連絡会長の黒須さん▶



防災士とは？

防災士とは、地域のさまざまな場で防災力を高める活躍が期待され、そのための十分な意識を持ち、一定の知識や技能を修得した人です。

防災士の資格は、防災士養成研修講座、救急救命講習の受講と、防災士資格取得試験の合格により取得できます。

あなたも防災士になりませんか

町では、自助・共助の考え方に基づいて地域のリーダーとしての役割を担っていただくことを目的に、防災士の資格を取得した人に補助金を交付しています。

制度の詳細は、町ホームページをご覧ください。町ホームページ▶

